

---

# 新しい学校を考える会

---

平成31年1月13日

---

---

# 新しい学校を考える会

『保護者・地域住民と学校を考える会です』

## <趣旨>

新しい学校を保護者、地域住民等と一緒に考え、広く意見を交わし、学校づくりに生かす

## <対象>

早来地区小中学校保護者、地域住民、趣旨に賛同する方

## <内容>

- ・新しい学校のコンセプトづくり
- ・新しい学校への意見、提案

※教育委員会への提言や意見で決定権はありません

## <頻度>

3月までは月2回程度、4月以降は年5～6回

---

# たくさんの課題があります

## 建設/建物

- 予算
- スケジュール
- 校舎
- 教室
- グラウンド

## 保護者/地域

- P T A
- コミュニティ・スクール
- 同窓会
- 安平小、遠浅小

## 学校運営

- 学校名
- 校章、校歌
- 学年（6/3制、4/3/2制）
- カリキュラム
- 部活
- 生徒会、児童会
- 行事（運動会、学校祭）
- 制服

### <その他>

- できあがるまでの教育活動
- 意見反映

# たくさん課題があります

建設/建物

予算

学校運営

学校名

一番の課題は

「コンセプトが決まっていらないこと」

どんな学校をつくりたいのか

※次回の説明会で提示します

**どんな学校にしたいのか？**

||

**どんな未来をつくるのか？**

# 未来の年表

人口減少日本でこれから起きること

河合雅司

2042年

高齢者人口がピークを迎える

2040年

自治体の半数が消滅

2039年

火葬場が不足

2033年

3戸に1戸が空き家に

2027年

輸血用血液が不足

2024年

全国民の3人に1人が65歳以上

2020年

女性の半数が50歳超え

# 人口減少カレンダー

2019年	IT技術者が不足し始め、技術大国の地位揺らぐ
2020年	女性の2人に1人が50歳以上に
2021年	介護離職が大量発生する
2022年	「ひとり暮らし社会」が本格化する
2023年	企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる
2024年	3人1人が65歳以上の「趙・高齢者大国」へ
2025年	ついに東京都も人口減少へ
2026年	認知症患者が700万人規模に
2027年	輸血用血液が不足する
2030年	百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える
2033年	「未婚大国」が誕生する
2039年	深刻な火葬場不足に陥る
2040年	自治体の半数が消滅の危機に
2042年	高齢者人口が約4000万人とピークに
2045年	東京都民の3人に1人が高齢者に
2050年	世界的な食糧争奪戦に巻き込まれる
2065年	外国人が無人の国土を占拠する

# 若者は2人に1人が100歳人生

50%の確立で生存する年齢予想

現在の年齢

寿命

10歳



107歳

20歳



100歳

40歳



95歳

60歳

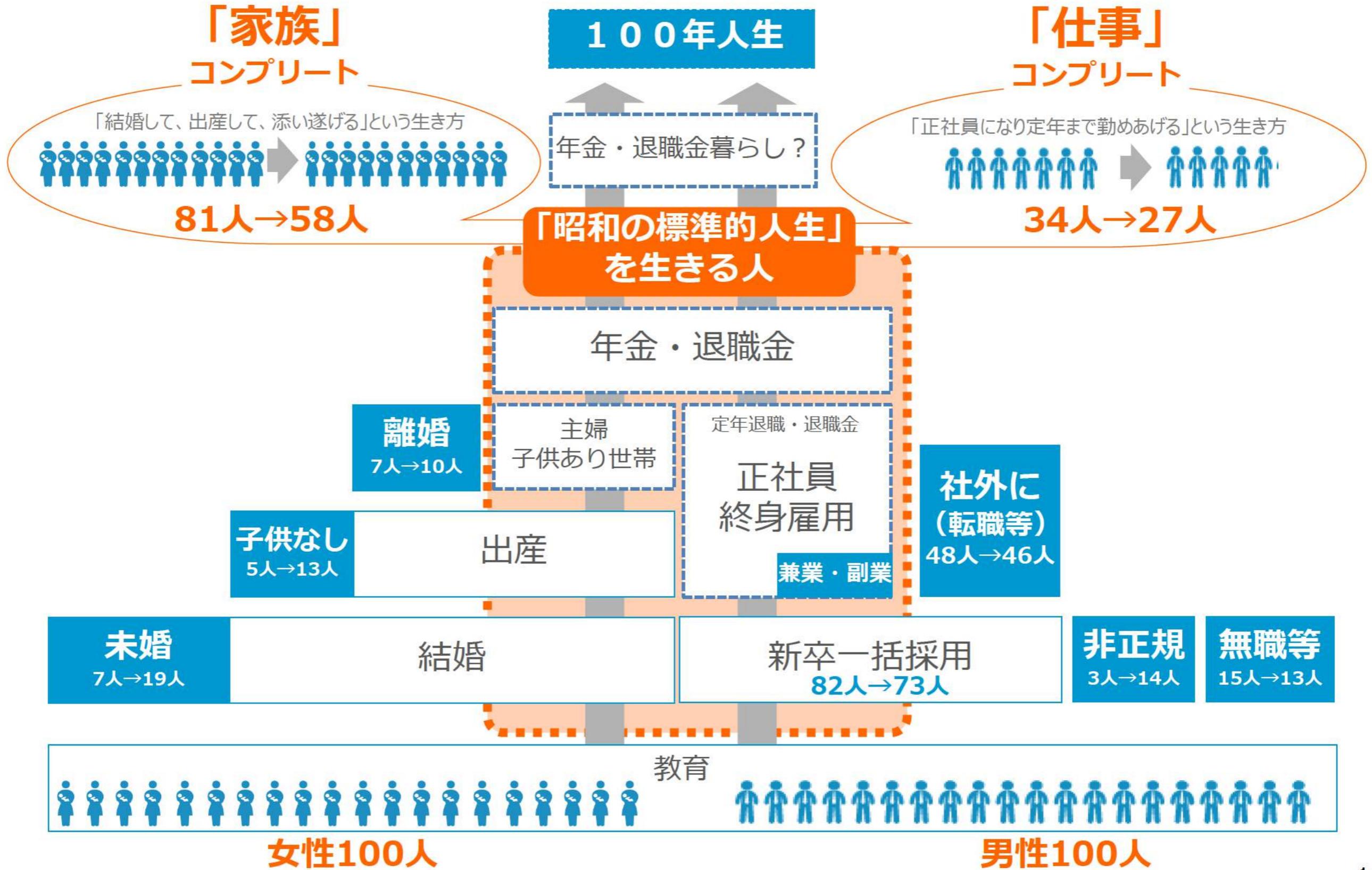


90歳

# 「昭和の人生すごろく」のイメージ

‘50年代生まれ→‘80年代生まれ (推計含む)

昭和の標準的人生  
 昭和の標準的ではない(?)人生



今後は、人生100年、二毛作三毛作が当たり前。

にも関わらず、「昭和の標準モデル」を前提に作られた**制度**と、それを当然と思いがちな**価値観が絡み合い、変革が進まない**。

これが、多様な生き方をしようとする  
**個人の選択を歪めている**のではないか。



# 社会がさらに変わる

インターネットが劇的に速くなる (2019年から)

(今の100倍速い)

**人工知能**

(分析/判断)

**ロボット**

(介護/作業/労働)

**自動運転**

(バス、農作業、輸送)

**情報収集/分析**

(個人にあわせて)

**同時通訳**

(外国人労働者  
スポーツ留学)

**遠隔操作**

(医療診察、手術)

# Society 5.0

ソサイエティ 5.0

## Society 1.0

### 狩猟社会

一定の範囲内で活動し動植物の狩猟や採集を生活の基盤とする社会

## Society 2.0

### 農耕社会

農耕によって定住しやすく、そこから規範が生まれ共同体が形成される社会

## Society 3.0

### 工業社会

文明開化に始まり「産業革命」による製造業が盛んになる社会

## Society 4.0

### 情報社会

情報が諸資源と同等の価値を有し、それらを中心として機能する社会

## Society 5.0

### 人間中心の社会（超スマート社会）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

# 新たな社会 “Society 5.0”

5.0

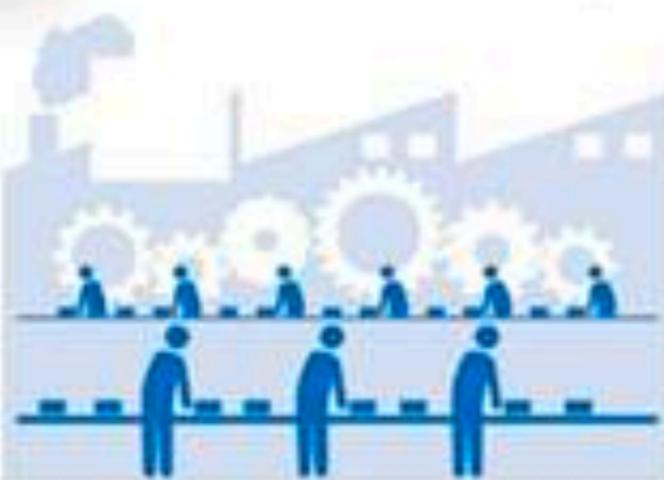


1.0  
Society 1.0 狩猟



2.0

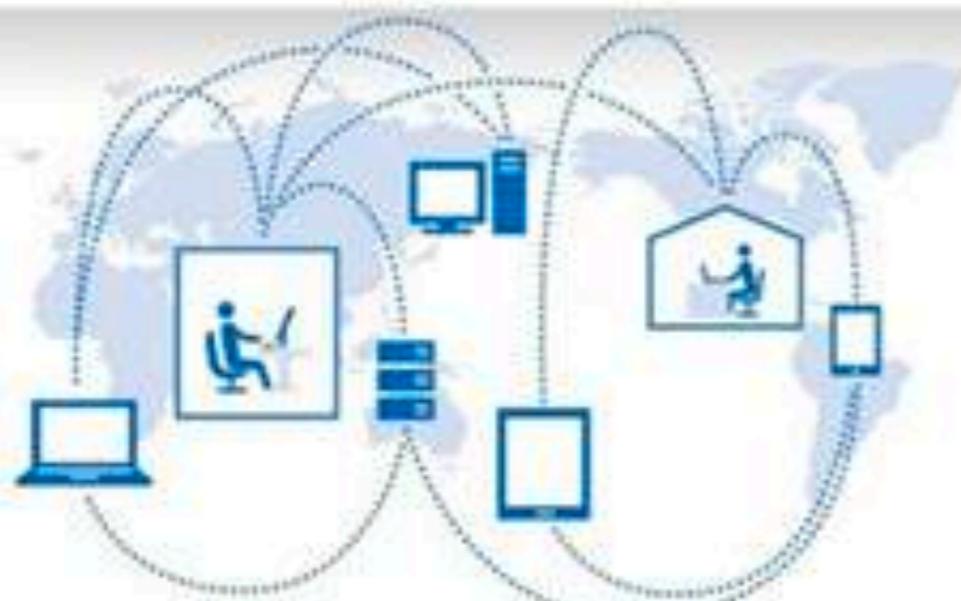
Society 2.0 農耕



Society 3.0 工業

3.0

4.0



Society 4.0 情報

〔内閣府作成〕

『内閣府作成』

**これまでの社会**

知識・情報の共有、連携が不十分



IoTで全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会

**これまでの社会**

地域の課題や高齢者のニーズなどに十分対応できない



イノベーションにより、様々なニーズに対応できる社会

# Society 5.0

AIにより、必要な情報が必要な時に提供される社会



**これまでの社会**

必要な情報の探索・分析が負担  
リテラシー（活用能力）が必要



ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性がひろがる社会



**これまでの社会**

年齢や障害などによる、労働や行動範囲の制約

# 課題

高齢者には負担が大きい。天候への対応には経験が必要



市場情報



食のトレンド

解析

AI 人工知能

output

欲しい消費者へ  
欲しい時に配送

ロス削減



消費者のニーズに合わせた農産物の適時自動配送

気象情報

生育情報

ドローン



マルチロボットトラクタ

水管理バルブ

スマート追肥機

スマート田植機

収量コンバイン

食料安定生産

食料の増産  
人手不足解消

最適な営農計画

- ニーズに合わせた収穫量の設定
- 天候予測などに併せた作業計画
- 経験やノウハウの共有
- 販売先の拡大

## 超省力・高生産なスマート農業

- 農作業の自動化、省力化
- 水管理の自動化、最適化
- 生育情報の自動収集

[内閣府作成]

# 課題

行先やルートが面倒。渋滞は嫌だ

天候が心配。事故なく安全第一に。

楽しい所がいい。美味しい物が食べたい。

センサー情報

## ビッグデータ

解析

AI 人工知能

過去の履歴

データベース

リアルタイム情報

天気

交通

宿泊

飲食

output

観光スポット

移動方法

ホテル

レストラン

負担軽減

### 移動支援

高齢者や障がい者でも自律型車いすで一人で移動

〔内閣府作成〕

GHG削減

### スムーズな移動

カーシェア、公共交通の組み合わせでスムーズに移動

AI

GHG削減

### 渋滞緩和 事故減少

自動走行で渋滞なく、事故なく快適に移動

### 最適な計画

好みに合わせた観光ルートの提供、天気よし、混雑なし

地域振興

# 課題

症状が悪くなる前に  
知りたい。一人でも  
自立した生活したい。



環境  
情報

医療  
情報

呼吸数

体温

血糖値

血圧

位置  
情報

心拍数

体重

リアルタイム  
生理計測  
データ



output

負担軽減  
社会コスト軽減



**生活支援**

ロボットによる生活  
支援・話し相手

健康寿命延伸  
治療費削減



**健康促進**

リアルタイムの自動健康  
診断・病気の早期発見

健康寿命  
延伸



**最適治療**

生理・医療データの  
共有による最適治療

負担軽減  
社会コスト軽減



**負担軽減**

医療・介護現場でのロ  
ボットによる支援



# 社会がさらに変わる

インターネットが劇的に速くなる (2019年から)

**人工知能**

(分析/判断)

**自動運転**

(バス、農作業、輸送)

(今の100倍速い)

**同時通訳**

(外国人労働者  
スポーツ留学)

**遠隔操作**

(医療診察、手術)

**ロボット**

(介護/作業/労働)

**情報収集/分析**

(個人にあわせて)



**新しい社会に対応するため  
大学 (入試) が変わる**

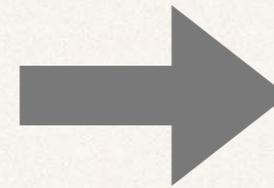
# 大学入試改革のイメージ

現在

新制度

高校での  
学力評価

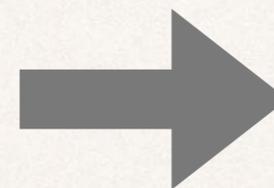
内申



高等学校  
基礎学力テスト

共通試験

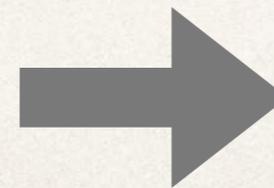
センター  
試験



大学入学希望者  
学力評価テスト

各大学での  
個別試験

筆記試験  
中心



多面・多様な問題  
面談・討論も実施

## 2020年度から新テストを実施

大学入試センター試験に代わり、2020年度から新テスト「大学入学共通テスト」が実施される予定です。新テストでは「知識・技能」の確認に留まらず、それを「活用する力」を中心に評価するものになる予定です。

## 改革の目玉 英語4技能とは？

新テストのうち英語は「読む」「聞く」の2技能から、「話す」「書く」を加えた4技能試験への変更が予定されています。グローバル化する社会に通用する実用的な英語力を身につけているのかを問うものになるのです。

現学年	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4
年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
名称	センター試験			大学入学共通テスト					
英語	現行のまま			民間試験活用			民間試験のみ		
国語、数学				マークシート					
地歴公民、理科				マークシート + 記述式					
マークシート				記述式追加検討					

【国語】記述式3題を含む大問を1問追加。試験時間は80→100分

【数学】数学Iの範囲から記述式を3題を追加。試験時間は60→70分

【英語】実用技能英語検定(英検)やTOEICなどの民間試験を活用。高3の4～12月に2回受験できる。2023年度まで現行のマークシート式を併存させ、大学は両方もしくは一方を入試に活用する。

# 大学入試改革 今後のスケジュール

(文科省の資料などを基に作成)

## 大学入学共通テスト(仮称)

## 各大学の個別選抜

10万人規模のプレテスト  
を実施

2017年度

18年度

「実施大綱」の策定・公表

19年度  
初頭

新たな評価方法を順次導入

実施

20年度  
(21年1月)



21年度まで

国立大はAO・推薦入試による  
入学者を全体の30%に

# 主体的・対話的で深い学び



# 社会がさらに変わる

**人工知能**

(分析/判断)

**自動運転**

(バス、農作業、輸送)

**同時通訳**

(外国人労働者  
スポーツ留学)

**遠隔操作**

(医療診察、手術)

**ロボット**

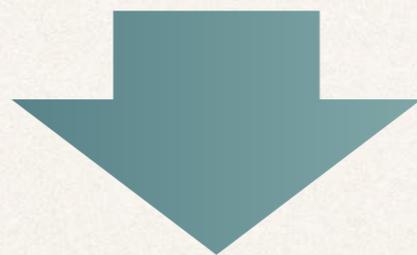
(介護/作業/労働)

**情報収集/分析**

(個人にあわせて)



**新しい社会に対応するため  
大学（入試）が変わる**



**新しい社会に対応するため  
学校（学び）が変わる**

# Society 5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～ (概要)



平成30年6月5日

Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会  
新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 1. Society 5.0の社会像・求められる人材像、学びの在り方

(Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会の議論を踏まえて)

## Society 5.0の社会像

A I 技術の発達 ⇒定型的業務や数値的に表現可能な業務は、A I 技術により代替が可能に  
⇒産業の変化、働き方の変化

### 日本の課題

A I に関する研究開発に人材が不足、少子高齢化、  
つながりの希薄化、自然体験の機会の減少

### 人間の強み

現実世界を理解し意味づけできる感性、倫理観、  
板挟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力

## Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像

A I 等の先端技術が教育にもたらすもの ⇒**学びの在り方の変革**へ

(例) ・スタディ・ログ等の把握・分析による学習計画や学習コンテンツの提示

・スタディ・ログ蓄積によって精度を高めた学習支援 (学習状況に応じたコンテンツ提供、学習環境マッチング等)

学校が変わる。学びが変わる。 ⇒Society5.0における学校 (「学び」の時代) へ

- ・一斉一律授業の学校 →読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・同一学年集団の学習 →同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・学校の教室での学習 →大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

**共通して求められる力** : 文章や情報を正確に読み解き対話する力

科学的に思考・吟味し活用する力

価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

**新たな社会を牽引する人材** : 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材

様々な分野においてA I やデータの力を最大限活用し展開できる人材 等

# Society 5.0

## 学校が変わる。学びが変わる。

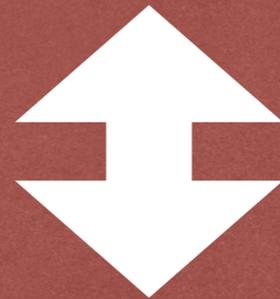
- 一斉一律授業の学校（従前）  
→ 基礎学力を習得させつつ、**個人の進度や能力、  
関心に応じた学びの場へ**
- 同一学年集団の学習（従前）  
→ 同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に  
応じた**異年齢・異学年集団での協働学習**
- 学校の教室での学習（従前）  
→ 大学、研究機関、企業、**NPO、教育文化スポー  
ツ施設等も活用した多様な学習プログラム**

**どんな学校にしたいのか？**



**どんな未来をつくるのか？**

**社会が変わっても大切にしたいもの**



**時代にあわせて必要になってくるもの**

**どんな学校にしたいのか？**

||

**どんな未来をつくるのか？**

社会が変わっても大切にしたいもの  
時代にあわせて必要になってくるもの

安平町では **学校って何？**

**学校ってどんな場？**

社会が変わっても大切にしたいもの  
時代にあわせて必要になってくるもの

安平町では **学校って何？**  
**学校ってどんな場？**

どんな学校にしたいのか？

どんな未来をつくるのか？

1月10日(木) 説明会、アンケート実施

1月16日(水) 新しい学校を考える会①

※コンセプトについて意見交換

教育委員会でコンセプト作成

1月22日(火) 新しい学校を考える会②

※コンセプト案検討

教育委員会でコンセプト修正

1月29日(火) 説明会、アンケート実施

※コンセプトについて提示

2月上旬 アンケートをもとにコンセプト再検討

2月中旬 修正コンセプト提示、アンケート実施

---

---

## <次回説明会>

日時：1月29日(火)18時30分～

場所：早来小学校体育館

## <新しい学校を考える会>

日時：1月22日(火)18時30分～

場所：早来中学校仮設校舎

内容：コンセプト検討（提示）

---

---

# 早来中学校校舎再建に 関する説明会

---

平成31年1月10日  
安平町教育委員会

---